

令和2年度 第1回 学校運営協議会

日 時：令和2年6月25日（木）18：00～19：30

場 所：高知県立清水高等学校 会議室

参加者：（委 員）弘田浩三（学校関係者）、岡崎哲也（学校関係者）、岡林賢純（保護者）、
程岡庸（地域住民）、新谷英生（地域住民）、速川志保（地域住民）、
福重百合架（地域住民）、田中慎太郎（地域住民）、
宮地秀伸（清水高等学校長）
（県教委）土方聖志（高等学校課指導主事）
（学 校）田中修一（全教頭）、泥谷耕二（定教頭）、植田文（事務長）、
近藤卓（主幹教諭）、田中宝（生徒指導主事）、沖田耕二（教務主任）

記 録：

[開会] 高等学校課 あいさつ及び説明

[自己紹介]

[会長・副会長選出]

[学校説明]

[協議] (抜粋)

- 「土佐清水市から出たい」と回答した生徒が一定数見られたが、「出たい」のは「一時的に」なのか、「ずっと」なのか、そのあたりを確認する必要はないか。
- 魅力を創るという意味では、フェアヘイブンへの留学を半年から1年程度の長期に実施してはどうか。
- 部活動の精選を行い、多くの生徒が入部を希望する部活動に注力する必要があるのではないか。
- 保護者の思いはどうか。大人が清水の良さをわかっていない。それが子どもに伝わっているのではないか。
- 進路保障は保護者が心配するところであるが、他校に行ったからといって必ずよい結果が出るわけではない。要は本人次第である。
- 本校は手厚い指導が可能な学校であり、生徒の可能性を拡げている。その辺はPR不足である。
- 親世代は市外に行くことに抵抗感を持っていない。親の意識をさらに変えるべきである。将来を考えると、全国募集のような方法も考えるべきである。よそから生徒を呼び込むことも必要である。
- ダンスをしたいという生徒の声がアンケートにもあったが、地域の活動の中に取り込

むことができるのではないか。さらに、豊かな自然を生かせるような学科を考えてはどうか。「自然学科」としてキャンプやネイチャーについて学べるような内容を考えてはどうか。

- いろいろな意見が出ているが、「すぐに取り組むべきこと」と「時間をかけて取り組むべきこと」を見極め、考える必要がある。
- 現状を知るうえで、アンケートを実施してはどうか。中学生だけではなく、地域の声も聞くべきである。
- 将来の地域を担う人材づくりを推進するべきである。教員は異動で変わるが、地域住民はこの先もここに住み続ける。地域人材を活用するべきである。高校生が地域にかかわる機会を設けることで、地域の良さを知ってもらえる。大人も、高校生と関わることで様々な課題が見えてくるのではないだろうか。

[閉会]